

## 令和7年度 第78回卒業証書授与式(式辞)

ここ鳥羽台にも、ようやく春の訪れを感じるこの佳き日に、本校第78回卒業証書授与式を挙行いたしましたところ、PTA 会長、暁美会会長をはじめ、ご来賓の皆様には公私ご多用の中、ご臨席をいただき厚くお礼申し上げます。

また、保護者の皆様におかれましては、卒業生の門出を祝うためにご出席をいただき、誠にありがとうございます。

ただ今、卒業証書を授与いたしました 276 名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんが晴れの卒業を迎えられたのは、皆さん一人ひとりの頑張りとクラスや部活動等で互いに切磋琢磨し、支え合った仲間や、熱心にご指導してくださった先生方、そして、いつも温かく見守ってくださった ご家族の存在があったからこそだと思っています。是非、今日は心からの感謝の気持ちを伝えてください。

さて、令和8年度に単位制総合学科として20年目の節目を迎えます本校は、普通科目に加えて、将来の進路を見据えた様々な特色ある選択科目や「産業社会と人間」「課題研究」など探究活動を通じた総合学科ならではの学び、そして、国際理解教育や地域貢献活動を核としたキャリア教育、部活動などに力を入れ、幅広い視点から高校生にとって必要な資質・能力の育成に、地域や関係機関と連携しながら「チーム明南」で取り組んできました。

本校の教育方針・教育目標をよく理解し、日々の授業や文化祭・体育祭、総合学科発表会などの学校行事、部活動等に意欲的に取り組んでくれた卒業生の皆さんは、様々な体験や経験を通して、この3年間で本当にたくましく成長してくれました。

部活動では、大会やコンテスト等で運動部・文化部の活躍する様子を頻繁に見聞きすることがありました。中でも、ウエイトリフティング部は今年度の全国インターハイで3名の優勝者を輩出し、男子バスケットボール部は26年ぶりの近畿大会出場を果たすなど、78回生を中心に活躍してくれました。また、文化部においても美術部、書道部、吹奏楽部などコンクールや大会で好成績は勿論のこと、様々なイベントへの参加も快く引き受けてくれました。特に美術部と有志中心ではありますが、正門正面の壁画アートを卒業生のH君を中心に、この卒業式に間に合うように制作してくれました。本当に皆さんの高い潜在能力と大きな伸びしろは、これからの皆さんの将来の可能性を大いに感じさせる、そんな高校生活を送ってくれました。皆さんが部活動をとおして、これまで経験してきたことは、高校時代だけで終わるものではなく、今後の生き方や考え方に大きな影響を与える、お金では買うことができない

かげないのない宝となるものと確信しています。

学習面においても、卒業後、すぐに社会に出る人、大学や短大・専門学校に進む人など、進路は様々ですが、日々、皆さんの夢実現に向けて、熱心に取り組む姿を目の当たりにしました。特に、総合学科発表会のポスターセッションは、各自の課題研究の成果を一人ひとりが堂々と発表している姿に大きな手応えと自信を感じる機会となりました。一足早く社会人となる皆さんは、明南で培ったコミュニケーション力や課題解決力、仲間と協同する力、等を存分に発揮し、それぞれの進路で求められる存在となる活躍を期待しています。現在、大学入試の最終段階に来ている皆さんは、志望校に合格できるように、あと少し最後まで諦めずに粘り強く頑張ってください。

これからの時代は、予測できないスピードと大きな変化を遂げて流れていくこととなります。「予測困難な時代」が当たり前になるということは、その変化に柔軟に対応するとともに、変化を楽しむ余裕を持つことが必要不可欠になります。つまり、これからの進むべき道は、いかにいい準備をして、目先の現象にとらわれずに、本質と向き合い、どう生き抜くかということが一層問われていきます。いろいろな情報が簡単に入手できる一方で、皆さんがその情報に惑わされることなく、正しく理解し、物事の本質を見極める目を養ってほしいと切に思っています。そのためには、本物を見る、本物に触れるということです。なかなかそのチャンスを巡ってこないかもしれませんが、身近にそのような経験や体験をしている、してきた人は意外と存在しています。その景色を見る機会は自ら手に入れることもできますし、何気ない一言で訪れることもあります。

今週閉幕したミラノコルティナ五輪のフィギュアスケートペアにおいて、りくりゆうペアが見事、予選5位からの五輪史上初となる金メダルを獲得したことは、皆さんの記憶に新しいところでしょう。木原選手は7年前、いろいろなペアと組んで大会に参加していましたが、自分と上手く合うペアがおらず、引退も視野に入れて、スケートリンクでスケート教室の手伝いや貸し靴の靴出しなどのアルバイトする日々を送っていました。そんな中、スケート教室で手伝いを終えて、帰宅しようとしていた木原選手を、その滑りを見ていたカナダ人の現コーチ、グルーノ・マルコットさんが「三浦と滑って見ないか。」と声をかけたこの一言で、この金メダルは生まれました。こんな有名な選手の話は、と思っている人もいるかもしれませんが、決して他人事ではありません。木原選手も最初から一流選手ではありませんでした。勿論、この奇跡の出会いに遭遇できた強運があり、このあとの努力や運も含めた環境を自分のものにできたからこそ、結果がともなった、まさに「一期一会」のお手本のような物語です。皆さんが気づくか、

気づかないか、これからのご縁を大切に、そして、まず第一歩を踏み出す勇気と行動を起こすことから始めていきましょう。昨年度の進路講演会での中村文昭先生の「頼まれごとは、試されごと」も同じ考え方です。

そして、もう一つのお願いは、他者への感謝の気持ちや謙虚さを忘れず、多くの人を支え、幸せにできる人になってもらいたいということです。良い時も悪い時もどんな状況下であっても、「感謝する心と謙虚さ」を持ち続けて欲しいのです。私は、『今、ある全てのことに感謝』することを常に忘れないで行動してきました。これまでの当たり前の生活は、自分一人の力で築けてきたものとは思っていません。皆さんも家族、先生、友達、先輩・後輩、近所の人、今まで出会ってきた全ての人たちや全ての出来事・経験に感謝して、発言や行動することを心がけてください。その振る舞いにより、皆さんの周囲には多くの人が集い、良き理解者や協力者を身近に感じるようになるはずです。行動を変えることで性格も変えることもできます。その逆も当然起こりえますので、是非、笑顔であいさつをする、いつも笑顔を絶やさないことからチャレンジしてみてください。

皆さんは3年間で仲間や先生らとともに、社会に対応できる学びや経験を通じて、この卒業式を立派に迎えることができました。自信を持って、社会に飛び立ってください。私たち教職員も在校生ともに、78 回生の皆さんが築いてくれた校風をつないで、誇れる、また、いつでも暖かく皆さんを迎えられる母校となれるよう、頑張っていきます。いよいよ明南から巣立つときがやってきました。名残惜しいですが、お別れの時です。

最後になりましたが、保護者の皆様におかれましては、本日のお子様のご卒業は感慨もひとしおのことと存じます。心よりお祝い申し上げます。また、この3年間、教職員一同、力をあわせ、お子様の教育にあたってまいりましたが、至らぬことも多く、ご心配をおかけすることもあったかと存じます。そのような中であっても、保護者の皆様には時には厳しく、時には優しく、お子様を励まし、支えていただくとともに、本校の教育活動にご理解ご協力を賜りましたことに、心から感謝申し上げます。

これから 78 回生の皆さんがそれぞれの道で夢を実現するために、様々なことに生き生きと、そして、諦めず、ひたむきに挑戦し、輝く未来を切り開いていけるよう、心からお祈りしまして、式辞といたします。

令和8年2月26日

兵庫県立明石南高等学校長 織 邊 剛